



地域日本語支援ニュース こだま 第 417 号

2022.3.17

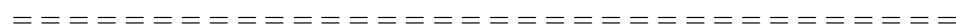


★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>



■ともに生きる：東京都葛飾区から■

葛飾区在住の外国にルーツをもつ子どもたちに日本語学習支援を行っている団体「なかよし」は、2010年の発足以来10余年、一人ひとりに寄り添いながら地道な活動を続けてきました。その間に、行政機関や学校、家庭との信頼の輪が少しずつ広がり、よりよい支援体制に向けて着実な歩みが進められているようです。「なかよし」代表の浦山太市さんにこれまでの経緯と今後について書いていただきました。

.....

「外国にルーツをもつ子どもたちの笑顔のために」 その2
子どものための日本語学習支援「なかよし」
浦山 太市

◆はじめに...

「なかよし」発足は、以前から不登校児童生徒との関わりを続けていく中で、外国にルーツをもつ子どもたちが友だちとのトラブルや学校への不適応から不登校になっていく事例を見聞きするようになり、気になり始めたことがきっかけです。ちょうどこの頃2010年夏、かつしか区民大学（葛飾区教育委員会生涯

学習課)で「外国人児童のための学習支援ボランティア講座」が開講。この受講メンバーが声を掛け合い 2010 年 9 月に発足したのが「なかよし」です。

私たちの活動の概略は、2016 年 11 月 10 日、地域日本語支援ニュース「こだま」(307 号)で、報告させていただきました。

(2016 年度記事 URL: クリックすると、zip 形式で 2016 年度の全ての記事がダウンロードされます。<https://www.ajalt.org/file/kodamabn/kbn2016.zip>)

◆葛飾区「日本語ステップアップ教室」開講までの経緯

葛飾区内小中学校三校の日本語教室は、当初は中国ルーツの児童生徒のみが対象でした。三校のうちの一校、高砂中学校の担当教師が私たち「なかよし」会員の一人であったこともあり、学校でボランティアとして学習支援をしながら、「なかよし」の土・日曜学習教室や長期休業中の教室、イベント等では多国籍多言語の子たちと触れ合っていました。そこで強く感じたこと、それは学校の日本語教室の対象を「中国ルーツの子」から「外国ルーツの子」へと広げる必要性でした。

私たちは、機会ある毎に教育委員会の日本語担当者や学校長、関係教員、議員等に種々訴えてきました。このころ生涯学習課の担当者の後押しで 2012 年、「かつしか子ども若者応援ネットワーク」も組織され「なかよし」も参加しました。2013 年には、教育委員会も「子ども多文化センター」(仮称)という外国ルーツの児童生徒への支援組織立上げを議会に提出。

5 年後、諸準備を終え 2018 年、念願の外国ルーツの子の日本語初期指導のために「にほんごステップアップ教室」が総合教育センター内に発足開講しました。同時に東京都に日本語学級(中学校 2、小学校 1)の設置を報告。発案から数年です。教育委員会が直接運営するこの教室で「なかよし」も 2021 年 7 月まで学習支援員としてお手伝いをしました。秋からは教室の運営が民間会社委託になり、センターでの「なかよし」の支援は終了しました。

「かつしかのきょういく」平成 30 年 5 月 31 日発行
https://www.city.katsushika.lg.jp/_res/projects/default_project/_page/_001/018/221/136_5.pdf

◆「家庭」や「学校」との連携、関わりでの課題、その後

最近、「外国の子」に関わる相談や連絡が増えてきました。

「なかよし」発足より 10 余年、スタッフ一人ひとは、目の前の子どもたちの困り感に対して、地道に愚直に、そして丁寧に寄り添い対面での関わりを続けてきました。こうした学習や諸活動が認知されるようになり、少しずつではありますが徐々に行政、諸機関、学校、家庭等に「信」と「頼」の輪が広がってきました。

同時にまた、東京オリンピック、パラリンピック、そして働き方改革……国も都も、そして時代が「外国ルーツの子」に大きく目を向け出してきたことが後押しにもなり、連携という課題解決のハードルも低くなってきた感じがします……。嬉しいです。

千差万別な家庭状況への対応は、個々人に応じて、スタッフの中で通訳のできる方や対応すべき内容に詳しい方が、直接対話や関係する学校・機関へ同伴する等、可能な限りその子に寄り添って行うようにしています。

学校関係との連携は、相変わらず難しいこともありますが、教育委員会や学校勤務経験者、その知人等の輪（ネットワーク）の方々と共に、「目の前の困っている子の笑顔」のためを共通の願いと考え、日々活動しています。

◆「なかよし」の現在の活動概要

2022 年 2 月現在スタッフは会員 18 名、学生や社会人・主婦等のボランティアが約 20 名で、各人が都合のつく時に、ほぼマンツーマン体制で子どもたちの学習に関わっています。学習登録者は幼小中高生、時には母も含め約 40 名。毎回来る、テストが近くなると来る……等々、いつも一定していません。卒業生も時折気楽に顔を出したりし、語らっています。心おきなく語れる場、相談ができる場等として外国ルーツの子たちの居場所的な場にもなっています。

日本語学習（教科を通しての日本語学習も含む）、多い時は 20 数名、今はコロナ禍ですが、学校が休校にならない限り、学校同様、感染防止のルールを徹底し対面での学習教室を実施しています。このコロナ禍での開室はスタッフも含め、学習者も縮小し受験生を中心に行っています。多い時でも 10 名前後、少ない時は数名の参加者です。

葛飾区ホームページ ボランティア日本語教室

<https://www.city.katsushika.lg.jp/information/1000087/1022737/1025235/1025612.html>

◆「なかよし」の今後

2010年「なかよし」が発足し、今年で12年になります。子ども（年少者）の日本語教育に対しても、国としてもまた文部科学省においても様々な施策を打ち出し取り組みを始めてきました。特に外国ルーツの大人そして児童生徒の多い地域などは、国より早い時期から先行的先進的な取り組みをしてきています。それらの素晴らしい実践を「こだま」では常時紹介しています。「なかよし」の活動は、あまり拵げず地元の身近な子たちを対象にした小さなもので……を心がけてきました。ミニだから組織運営に時間を多く割くことなく、その分一人ひとりへの支援は小回りを利かせた濃い関わりができる、という考えです。ミニですから、ビッグな活動をしている「こだま」等、様々な関係ネットワークの力、情報等をお借りしています。

文科省の後追いで、東京都教育委員会もここ2、3年、真剣に動き出してきました。「なかよし」もお世話になっている「東京の日本語教育を考える会」等の民間団体や各市や区のボランティアの働きかけ、尽力、それを受け止める行政の担当者の目の真剣度が増してきました。子どもたちの言動から学校（行政）の取り組み、施策の大切さを実感しての日々の活動です。「時」「機」到来は本当にうれしいです。

「なかよし」の日々月々の活動も決して華々しくなく淡々とした小さなものですが、強みは直接触れ合い学び合う中で、外国ルーツの子たちの生を感じ、その思いに寄り添って活動しているということ、と思っています。そしてこれからも、あの子この子の笑顔のために、スタッフ一人ひとり、そして「なかよし」のもっているネットワークを活かし動いていきたいと思っています。

葛飾区ゆかりの人気者「フーテンの寅さん」は、映画『男はつらいよ』の中でこんなことを言っています。

「どんなことでもいいよ。俺 なんでもするから。」(18作目)

「さあ 明日もモリモリと 真面目に頑張ろう！」(13作目)

「あーあ、やっぱり家が一番いいや」(12作目) …そんな居場所でありたい…。
‘情の寅さん’の心持で「なかよし」は、今までも、今も、そしてこれからも……。

◆「なかよし」で学んだ子の最近の声

『私は中学2年生の時に中国の北京から来ました。高砂中学校にある日本語学級で日本語の勉強をしました。なかよしの先生たちはとても親切で、勉強だけでなく、日本での日常生活や学校生活もいろいろ面倒をみてくれました。本当に助かりました。勉強では丁寧に一人ひとりのレベルと趣味趣向に合わせた学習内容を用意してくれ、とても為になりました。楽しい時間でした。』

※今は社会人23歳。当時の日本語学級（在籍校から午前中通級し学習）では担任の一斉授業と私たちの個別対面学習を組み合わせた指導をしていました。昨年、久しぶりに学習会場(柴又教室)にふらりと来ました。

『……ありがとうございます。都立△△高校の倍率は上がりました。僕は不安ですが、今まで頑張ってきたことを21日に全力を出して入試を(に)望(臨)みたいと思っています。先生のおかげで日本語もうまくなったし、日本に来てからずっと僕のためにいろいろなことを教えてくれたりしてほんとにありがとうございました。受験当日まで緊張しますが、それを気にせずに今まで頑張ってきたことを全力で……』

※彼は小6の時、エチオピアから来日。コロナ禍でしばらく会えず、心配で担当していたスタッフがメールを送った時の返信メールです。3月1日都立高校合格発表日…「合格」でした。
